

カンラン新品種

『YR萌美134』の特性を生かす上手な栽培方法

雪印種苗(株) 千葉研究農場

佐々木 則 雄

1 はじめに

平成13年の夏播きより販売を開始した『YR萌美134』は、各地で好評頂きましたが、生産者によっては期待した良い結果が得られず、評価が大きく分かれてしまいました。そこで今回は『YR萌美134』(以下『萌美』と略。)の特性の確認とその特性を発揮させる肥培管理を中心にご紹介致します。

2 特性

『萌美』は萎黄病に対し完全抵抗性を有し、耐寒性・低温肥大性に優れ、厳寒期に照りのある品質の良い鮮濃緑球を収穫できる品種です。

耐病性

萎黄病完全抵抗性(Aタイプ)で、黒腐病・黒斑細菌病にも強く、栽培容易な品種です。

熟期

中早生で、耐寒性・低温肥大性に優れ、晩夏播き冬穫りの作型に適します。

生育

草姿は立性で、草勢は強く、外葉は波打ちのである極濃緑色で、球の肥大性に優れ、根張りが強いので天候不順等の悪環境下でも安定した生産が期待できます。

球の形状、品質

球は五角玉になりにくい正円の甲高球で、球色は鮮濃緑、球内色は黄色味があり、芯はやや太く短いです。葉質は柔らかく食味が良好です。

3 適作型と注意点

耐寒性・低温肥大性が強く、一般地、暖地の夏

播きの後半の作型に適します。

一般地

7月末～8月上旬播種

11月上旬～12月中旬収穫

暖地

8月中旬～8月末播種

12月末～2月末収穫

*『YR初美636』を導入されている産地では、『初美』の品質が低下する後半の作型から『萌美』に切り替えて良質球を収穫するようにしてください。

4 栽培・管理

育苗、定植

『萌美』は徒長しにくく、がっちりした苗に仕上がりがやすい品種で、通常の育苗方法と変わりはありません。



写真1 根の発達状況。『萌美』は根量が多い。

りませんが、高温期の育苗になるため、灌水は早朝に行い、べと病・苗立ち枯れ病・根朽病予防のため夜間は乾き気味に管理し、1～2回程度殺菌剤での灌水をしてください。特にセルトレイの育苗では、早朝の灌水だけでは不足する場合があります、午後2～3時頃までに若干の灌水をして、前述したように夜間は培養土の表面が乾き気味程度になるようにしてください。

定植は生育の遅れている苗は使用せず、揃った苗を使用し、収穫率、秀品率が上がるようにします。

栽植密度は畝幅60cm、株間32cmを目安として、10aあたり約5,200株を定植します。

施肥

『萌美』は草勢、根張りが強いので、施肥量は土質により異なりますが、同作型の従来品種より基肥を30～40%程度控え、初期に外葉を大きくしないように追肥型で管理します。初期生育で外葉を大きくしてしまいますと結球に日数を要し、大玉になりますので注意してください。

収穫

『萌美』の結球初期は外葉が出来すぎるほど尖り気味に始まり、その後横への肥大へと移行し、甲高球となって収穫適期となります。適期判定の目安として止め葉の1/3程度が球に密着した状態になるまで待ちます。早穫りしないように注意し



写真2 『萌美』立毛状況(千葉県銚子市)
早播き多肥栽培。外葉がやや出来すぎている



写真3,4 山砂客土圃場の生育状況と収穫物
てください。

5 上作のポイント

上記に述べたのが『萌美』栽培の概要ですが、さらに細かく説明させていただきますと、以下の点がポイントとなります。

根が強いので吸肥力が強く、湿害にも非常に強い。

(写真1)は『萌美』と千葉県東総地区の主要品種の根を比較したのですが、根量、根長に大き



写真5 愛知県渥美町沿岸部の土壌

な差が見られます。平成12年の長雨、13年の局所的な豪雨のおり、旺盛な生育をしたのは『萌美』でしたが、基肥が同量ですと初期の外葉が大きくなりすぎて、大玉収穫となり(写真2)、主要品種は生育遅れと小玉傾向となりました。また『萌美』は排水の悪い水田転作圃場でも安定した生産量を示し、好評でした。(写真3,4)は水田に山砂を客土したため、肥料分がぬけやすい圃場ですが、『萌美』にとっては好条件となっています。

(写真5)は愛知県渥美町の土壌、(写真6)は南知多町の土壌ですが、品種によっては草勢を確保できず小玉になりやすい土壌です。『萌美』はこのような土壌では、外葉ができにくくコンパクトにおさまり、球が安定した結球を示します(写真7)。

以上のことから、『萌美』は一般の品種にとって栽培しにくい土壌で特に能力を発揮する品種といえます。一方では土壌条件の良い圃場では施肥量を控えた栽培が適する経済的な品種とも言えます。

6 おわりに

最近では異常気象が当たり前になるような天候不順と価格低迷のなかで、生産者の方々は計り知れない苦労をされていることと思います。平成13年の冬季は12月に急激に気温が低下し、暖冬に慣

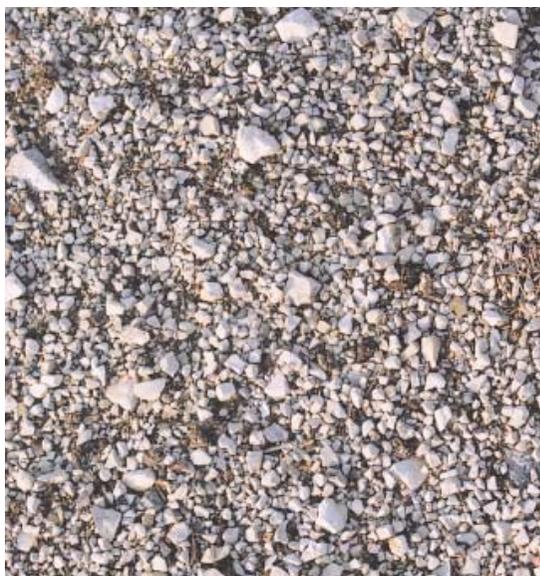


写真6 愛知県南知多町豊岡地区の土壌(頁岩)



写真7 『萌美』立毛状況(愛知県南知多町)
外葉がコンパクトで玉の肥大が良い。

れていた私たちには徐々に本格的な冬の到来かと思いましたが、その後は2月より気温が上昇し、異常に早い春の到来となりました。

そのためキャベツ産地では、収穫間際の圃場で凍害が多発し、後の菌核病発生の対応と大変苦労されたと聞いております。

このような気象環境と市場価格の低迷のなかで、『萌美』が僅かでも生産者の皆様が有利に栽培・収穫・出荷できる品種であることを願っております。